特集 2

大森山動物園とユキヒョウ
～繁殖に向けて～

園長補佐　三浦　匡哉
獣医師　湯澤　菜穂子

リヒト

1　はじめに

大森山動物園では1991年からユキヒョウの飼育を開始しました。一度は展示が途絶えてしまった時期もありましたが、2018年にオスのリヒトが来園し、再びユキヒョウの繁殖に取り組んでいます。今回は、大森山動物園におけるこれまでのユキヒョウ飼育の歩みと今後についてご紹介します。

2　ユキヒョウとは

ユキヒョウは中央アジアの山岳地帯に生息するヒョウの仲間で、普段は単独で生活し、繁殖期の1～3月にオスとメスが出会い、4～6月頃出産します。野生では数を減らしており、IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストでは、絶滅の危機が増大しているとされるVU（危急種）に該当します。飼育下では国際血統登録が行われており、生息域外保全が進められています。

3　大森山動物園のユキヒョウ飼育の歴史

大森山動物園では、1991年にメスのライサを名古屋市東山動植物園から、オスのパーチを札幌市円山動物園から、それぞれ借受け、繁殖に取り組みました。

1994年には初めて子どもが生まれ、2～3年おきに計4回出産しました。

その後、2007年にパーチが16歳で、2010年にはライサが19歳で亡くなったため、ユキヒョウが大森山動物園からいなくなってしまいました。

8年間のブランクを経て、再び大森山動物園でユキヒョウの飼育に取り組むチャンスが巡ってきました。2018年3月に旭川市旭山動物園で生まれ育ったリヒトを、円山動物園から借り受けることができたのです。

ライサ（左）とパーチ（2007年）

来園初日のリヒト（2018年）

4　リヒトのパートナーを探して

来園してすぐに2歳になったリヒトのパートナーを探しましたが、繁殖適齢期で独身のメスが当時国内にはいませんでした。そこで、公益社団法人日本動物園水族館協会のユキヒョウ計画管理者に相談し、飼育下個体群の遺伝的多様性を維持するために海外からの導入に挑戦しました。

計画管理者の紹介でオーストラリアの動物園に候補のメスがいることが分かったので、当園の飼育方法などを伝え、粘り強く交渉を続けましたが、残念ながら導入には至りませんでした。

この結果を受け、計画管理者に相談してもう一度国内の個体を探してもらったところ、東京都の多摩動物公園にいるアサヒがリヒトのパートナーとして決まりました。こうして無事に2021年3月19日にアサヒが大森山動物園にやって来たのです。

5　新生活でのアサヒ

アサヒは賢く物分かりがいいので、部屋の移動を覚えるまでにはさほど時間はかかりませんでしたが、飼育員がわざとアサヒを見ないようにしている間にササッと移動するなど、ユキヒョウらしく警戒心の強い性格です。少しずつ大森山動物園での生活にも慣れてきた頃、外展示場にも出るようになりました。アサヒのお気に入りの場所は、展示場中央にあるキャットタワーの最上階です。木の陰となりお客さんからはやや姿が見えづらい場所ですが、アサヒにとっては落ち着く場所のようです。

来園初日のアサヒ（2021年3月19日）

お気に入りの場所でくつろぐアサヒ（2021年8月23日）

野生のユキヒョウは群れを作らず、縄張りを持って単独で生活する動物なので、現在はアサヒとリヒトは1頭ずつ展示場に出ています。ユキヒョウの展示場は1つしかないので、2頭は交代で展示場に出ることになるのですが、マイペースな彼らは閉園時間になって寝室に戻るよう呼びかけてもなかなか帰ってきてくれないこともあります。特に暑さで食欲の落ちる夏は、気まぐれな彼らの外泊が続くことも多く、飼育員は2頭を交代で展示することに苦労しています。

6　繁殖に向けて

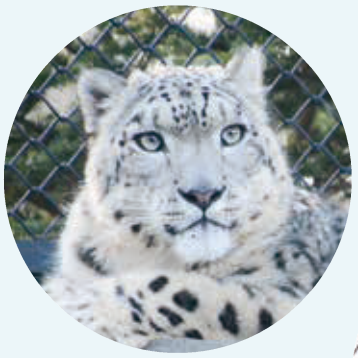
ユキヒョウの繁殖期は冬～初春で、この時期にメスは定期的に発情を迎え、鳴き声や匂いで相手を探して交尾を行います。

アサヒとリヒトで繁殖を目指すためには、ポイントが2つあります。まずはアサヒの発情兆候をしっかりと見極め、それに合わせてリヒトと同居させることです。発情したメスは、大きな声で頻繁に鳴いたり、地面にゴロンゴロンと体をこすり付けて匂いをつけたりするなどの行動がみられるようになります。

2つ目は安全な同居です。狩りをするための鋭い爪や牙をもつユキヒョウが、互いに攻撃し合って大怪我をする事態を防ぐため、同居にあたっては、2頭の様子を注意深く観察しながら十分に時間をかけて2頭の距離を近づけていく必要があります。柵越しのお見合いを少しずつ何度も重ねて、互いに相手を認識させ、一緒にしても闘争にならないと判断できれば同居をさせます。

7　最後に

リヒトは5歳とまだ若く、今回が初めての繁殖への挑戦となります。一方のアサヒは10歳と繁殖にはやや高齢になりつつあり、次の繁殖シーズンは残り少ないチャンスであることから、貴重なチャンスを逃さぬよう、慎重に準備を進めていきたいと思っています。



リヒト（左）とアサヒ。2頭の赤ちゃんが見られるよう、見守ってくださいね！